

舶工 第88号
令和3年5月17日

報 道 各 位

一般社団法人日本船用工業会

造船業界向けに「船用工業製品の取引に対するご配慮のお願い」を発出

新型コロナウイルス感染症拡大による経済活動の低迷が続いていましたが、各国政府の大規模な財政出動やワクチン普及により、一部の国で経済が急激に回復するとともに、クリーンエネルギーへの移行政策などを背景として、各種材料の価格が高騰する現象が発生・継続しています。これら材料を使用して製品を製造・販売している当会会員企業にとって、この状況は中小企業が多い各社の経営努力で対応できる限界を超えており、経営基盤を揺るがしかねず、製品の安定供給やアフターサービス等にも支障をきたしかねません。

このため、今般、一般社団法人日本造船工業会及び一般社団法人日本中小型造船工業会に対し、我が国造船・船用両業界が共に持続的に発展していくため、今般の材料全般の価格高騰に関して、当会会員企業への何分の配慮をお願いするため、別添の文書を発出したので、お知らせ致します。

【添付】

- ・「船用工業製品の取引に対するご配慮のお願い」（一般社団法人日本造船工業会 会長 斎藤 保 殿 宛）
- ・「船用工業製品の取引に対するご配慮のお願い」（一般社団法人日本中小型造船工業会 会長 越智勝彦 殿 宛）
- ・「参考資料 材料価格上昇状況」

本件問合せ先：

一般社団法人日本船用工業会 業務部 米川、金子
東京都港区虎ノ門 1-13-3 虎ノ門東洋協同ビル 5F
TEL: 03 (3502) 2041
E-mail: yonekawa@jsmea.or.jp 又は kaneko@jsmea.or.jp

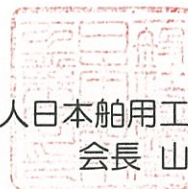
以上



船工 第 74 号
令和3年5月14日

一般社団法人日本造船工業会 会長 斎藤 保 殿

一般社団法人日本船用工業会
会長 山田信三



船用工業製品の取引に対するご配慮のお願い

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、当工業会及び会員企業各社に対しまして、ご高配を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、昨年来、新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行による経済低迷が続いておりましたが、このところ、各国政府の大規模な財政出動やワクチン普及により、急激な経済回復が進むとともに、大量の銅やニッケルを必要とするクリーンエネルギーへの移行の動きと相まって、銅の市場価格がここ1年で2倍程も上昇し史上最高値を更新するなど異常といえるほど高騰し、他の材料全般につきましても、市場価格の高騰が続いているのはご承知のとおりです。

当業界では、今日まで、懸命にコストダウンに努め、合理化に向けた設備投資等を進めることにより、造船各社殿に対し、船用工業製品の安定供給に努めて参りました。しかしながら、今般の材料価格高騰は、これら材料を使用して製品を製造している当会会員企業の経営努力で対応できる限界を超えており、この状況が続けば、中小企業が多い各社の経営基盤を揺るがしかねず、製品の安定供給やアフターサービス等にも支障をきたし、ひいては我が国造船・船用工業の国際競争力にも深刻な影響を及ぼすことを懸念しております。

貴業界におかれましても、鋼材価格の上昇など、非常に厳しい環境に置かれていることは十分承知しております。一方、中国の造船所ではこの鋼材価格の上昇等にもとづく船価引き上げの動きも報道されているところ、私ども船用業界としても、貴業界による船価上昇やサプライチェーン最適化に向けた取り組みも含め、出来る限りの協力をさせて頂く所存です。

つきましては、貴工業会及び会員各社におかれては、上記事情をご賢察の上、我が国造船・船用両業界が共に持続的に発展していくため、今般の材料全般の価格高騰に関して、当工業会会員企業各社への何分のご配慮を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

敬具



船工 第 74 号
令和3年5月14日

一般社団法人日本中小型造船工業会 会長 越智勝彦 殿

一般社団法人日本船用工業会
会長 山田信三



船用工業製品の取引に対するご配慮のお願い

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、当工業会及び会員企業各社に対しまして、ご高配を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、昨年来、新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行による経済低迷が続いておりましたが、このところ、各国政府の大規模な財政出動やワクチン普及により、急激な経済回復が進むとともに、大量の銅やニッケルを必要とするクリーンエネルギーへの移行の動きと相まって、銅の市場価格がここ1年で2倍程も上昇し史上最高値を更新するなど異常といえるほど高騰し、他の材料全般につきましても、市場価格の高騰が続いているのはご承知のとおりです。

当業界では、今日まで、懸命にコストダウンに努め、合理化に向けた設備投資等を進めることにより、造船各社殿に対し、船用工業製品の安定供給に努めて参りました。しかしながら、今般の材料価格高騰は、これら材料を使用して製品を製造している当会会員企業の経営努力で対応できる限界を超えており、この状況が続けば、中小企業が多い各社の経営基盤を揺るがしかねず、製品の安定供給やアフターサービス等にも支障をきたし、ひいては我が国造船・船用工業の国際競争力にも深刻な影響を及ぼすことを懸念しております。

貴業界におかれましても、鋼材価格の上昇など、非常に厳しい環境に置かれていることは十分承知しております。一方、中国の造船所ではこの鋼材価格の上昇等にもとづく船価引き上げの動きも報道されているところ、私ども船用業界としても、貴業界による船価上昇やサプライチェーン最適化に向けた取り組みも含め、出来る限りの協力をさせて頂く所存です。

つきましては、貴工業会及び会員各社におかれては、上記事情をご賢察の上、我が国造船・船用両業界が共に持続的に発展していくため、今般の材料全般の価格高騰に関して、当工業会会員企業各社への何分のご配慮を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

敬具

材料価格上昇状況

令和3年5月17日
一般社団法人日本船用工業会

材料価格上昇状況

影響を受けている材料例	左記材料を使用している船用機器例	直近1年程度の価格上昇率（公開情報にもとづく）及び関連新聞記事	主な上昇要因（新聞記事情報などにもとづく）	備考	
銅	<p>プロペラ、軸スリーブ、ポンプ、熱交換器、電線、発電機、電動機、冷凍・空調機、造水装置（チューブ、管板、配管など）、バルブ、軸受、消防用ホース接手金物類、号鐘等、弁類、バキュームコンデンサ、ドレンセパレーター など</p> <p>また、電線に使用されるため、航海機器など電気製品全般にも関係</p>	<p>上昇率 96%</p> <p>ロンドン金属取引所 LME 取引価格 2020年4月16日 5,098 ドル/トン 2021年5月10日 10,724 ドル/トン</p> <p>関連新聞記事：「<u>銅の国際価格は昨年夏の安値から約2倍に上昇し1トン9000ドル前後と約9年半ぶりの高値圏にある。</u>」（2021年4月4日付 日本経済新聞）など</p>	<p>・新型コロナ禍で多くの製品の供給力や輸送力が鈍るなか、各国政府の大規模な財政出動やワクチン普及による経済正常化で、<u>需要が急回復する（供給が追いつかない）ことによる物価上昇</u></p> <p>・中国の経済成長</p>	<p>銅取引は、ロンドン金属取引所（LME）、ニューヨーク・マーカンタイル取引所、上海金属取引所の3つの主要な国際市場がある。LMEで世界の約9割の取引が行われており、他の取引も含め、LMEにおける取引価格が国際的な指標価格となっている。</p>	
アルミニウム	<p>プロペラ、熱交換器、タービン、発電機、LNGポンプ、造水装置（アルミプラスチックなど）、軸受など</p>	<p>上昇率 65%</p> <p>ロンドン金属取引所 LME 取引価格 2020年4月16日 1,476 ドル/トン 2021年5月10日 2,565 ドル/トン</p> <p>関連新聞記事：「<u>自動車や建材などに使われるアルミニウムの国際相場が、約3年半ぶりの高値圏まで上昇している。</u>」（2021年4月27日付 日刊工業新聞）など</p>	同上	<p>銅と同様にLMEで取引が行われる。</p>	
ニッケル	以下のステンレス鋼板該当部分参照のこと	<p>上昇率 50%</p> <p>ロンドン金属取引所 LME 取引価格 2020年4月16日 11,657 ドル/トン 2021年5月10日 18,070 ドル/トン</p>	同上	<p>・リチウムイオン電池向け引合の増加をにらんだ、投機マネーの流入</p> <p>・コロナ禍から回復した中国の需要、米国の経済回復への期待による国際相場の上昇</p> <p>・各国の金融緩和で生まれた余剰資金の商品市況への流入</p>	<p>銅と同様にLMEで取引が行われる。</p>
ステンレス鋼板	<p>ポンプ（シャフト）、ケミカル系荷役ポンプ、バキュームコンデンサなど圧力容器、ドレンセパレーター など</p>	<p>上昇率 7%</p> <p>国内市場価格（鉄鋼新聞） SUS304 18-8 2.0mm 2020年4月 365,000 円/トン 2021年4月 390,000 円/トン</p> <p>関連新聞記事：「<u>国内最大手の日鉄ステンレスは原料となるニッケルや鉄鉱石の国際価格の上昇を心配し、国内流通市場（在庫）向け契約価格について、20年6月以降、ニッケル系の冷延鋼板を1トン計6万5千円（1キロ6.5円）値上げしている</u>」（2021年4月15日付 日経新聞）</p>	同上	<p>・原材料のニッケルと鉄鉱石、石炭、鉄スクラップの価格上昇</p>	

影響を受けている材料例	左記材料を使用している船用機器例	直近1年程度の価格上昇率（公開情報にもとづく）及び関連新聞記事	主な上昇要因（新聞記事情報などにもとづく）		備考
薄板鋼板	各種外板、ボイラなどの管、チェーン類(錨鎖、ラッシング用、雑用) など	<p>上昇率 36%</p> <p>国内市場価格（産経新聞）1.6mm 2020年6月 67,000円/トン 2021年4月 91,000円/トン</p> <p>関連新聞記事：「家電や自動車に広く使う鋼材の新延コイルは東アジアの取引価格がトン720ドル前後と20年夏の底値より7割高くなっている」（2021年2月17日付 日経新聞）</p>	同上	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄鉱石、石炭、鉄スクラップの中国需要増大 	<p>鉄鋼の価格は、原料となる鉄鉱石、石炭、鉄スクラップ等の価格の影響をうける。</p> <p>鉄鋼もスクラップの高騰の影響によると思われる値上げ要求が多く1.5倍程度の提示を受けることもある。船造員も材料費による値上げ要求が、国内外で発生している。</p>
厚板鋼板	エンジン台板など構造材全般、ウインドラス、ウインチ、デッキクレーン、グラブバケット、ハッチカバー、ボイラ（鋼板）、油水分離機、チェーン類（錨鎖、ラッシング用、雑用）、圧力容器 など	<p>上昇率 6%</p> <p>国内市場価格（産経新聞） 2020年4月 88,000円/トン 2021年4月 93,000円/トン</p> <p>関連新聞記事：「神戸製鋼は28日、造船や機械、建材に使う厚鋼板を1月契約分から1トン1万円値上げすると発表した」（2021年1月28日付 日経新聞）</p>	同上	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄鉱石、石炭、鉄スクラップの中国需要増大 ・国内高炉メーカーの需要減少による大幅な減産（生産調整） 	

上記の他にも、材料全般の価格が上昇傾向。また、各種製品輸送運賃なども上昇傾向

これまでの材料価格上昇時における 当会から造船業界への舶用工業製品価格の配慮願い文書の提出例

○平成16年3月に「舶用工業製品に係わる原材料等の急激な価格上昇に対するご配慮について（御願い）」文書、また、10月に「舶用工業製品価格の改善のお願いについて」文書を当会から造船業界に提出

○平成17年5月に「舶用工業製品価格の更なる改善のお願いについて」文書、10月に「取引条件の改善について（お願い）」文書を当会から造船業界に提出

○平成18年6月に「銅等の急激な材料価格高騰に対する配慮について」文書を当会から造船業界に提出。また、これに先立ち、平成18年5月に「ポンプ契約に対する銅価格スライド制の採用について」文書をポンプ業界から造船業界に提出

○平成26年4月に「舶用工業製品の取引きについて（御願い）」文書を当会から造船業界に提出

各材料の価格上昇と関連報道の状況

銅、アルミ、ニッケル、ステンレス、鉄鋼

銅 ロンドン金属取引所LME 価格推移

LME (London Metal Exchange) とは、ロンドン金属取引所のこと。1877年に設立された取引所で、世界最大規模の非鉄金属専門の先物取引所。銅、鉛、スズ、亜鉛、アルミニウム、ニッケル、アルミ合金などが上場されている。銅の取引所取引では世界の約9割の取引がLMEで行われており、他の取引も含め、LMEにおける取引価格は国際的な指標価格となっている。

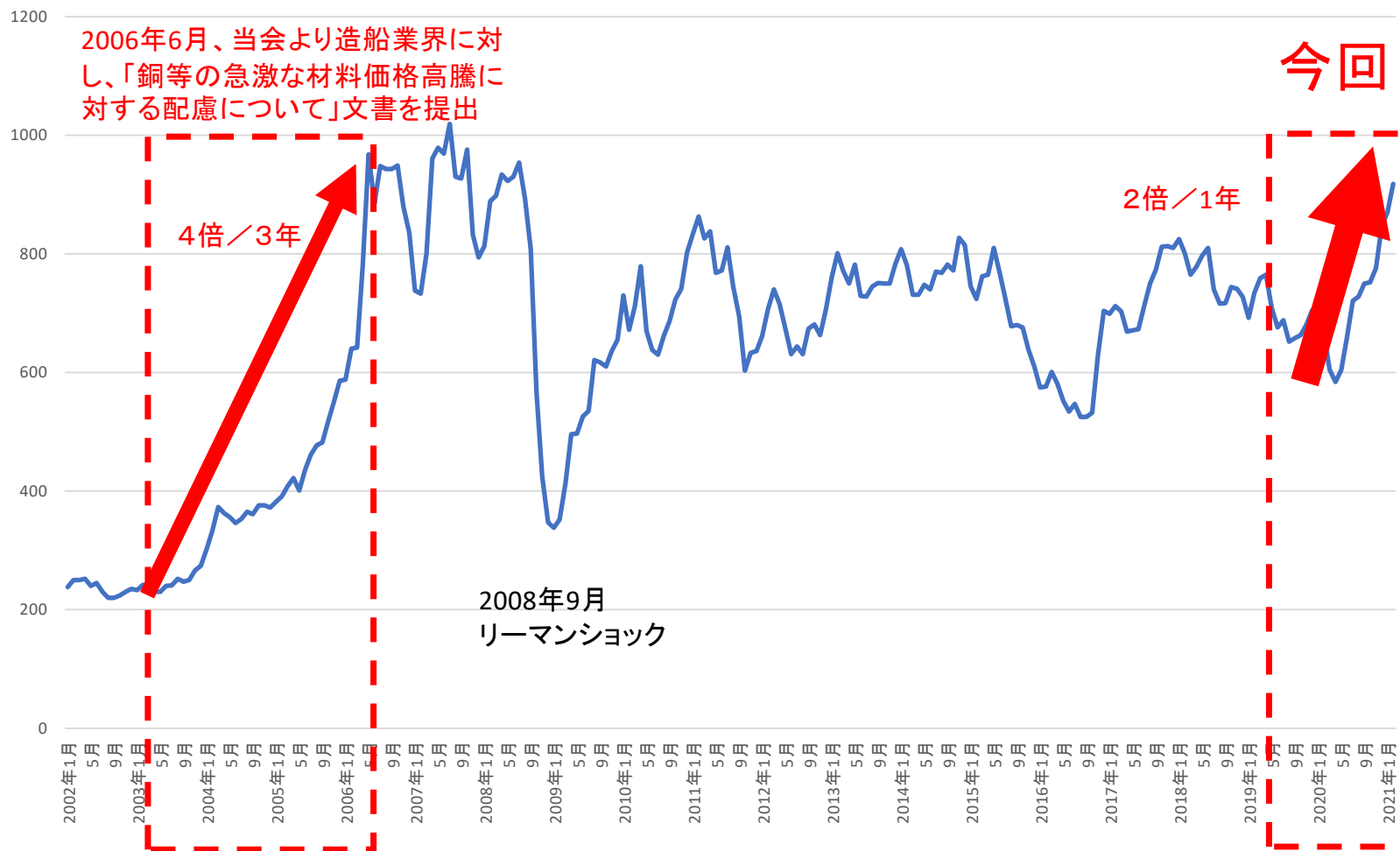
LME Copper Historical price graph

(単位: 12k
USD/トン)



銅建値 (LMEで決まった国際価格にもとづく国内価格) の推移

(単位:
千円/トン)



銅建値は、ロンドン金属取引所が公開する取引価格をもとに決定された価格を指標に、国内銅メーカーにより決定された価格

高騰コモディティの実相 グリーンが変える需給

2021/4/4 2:00 | 日本経済新聞 電子版



コロナ禍で苦戦しているはずの世界の鉱山会社に異変が起きている。

チリを本拠に銅や金などを生産するアントファガスタの2020年12月期の銅の販売量は前の期に比べ4%減り、金は31%減だったが、売上高は3%増の51億ドル（約5600億円）を確保した。銅の販売価格上昇が補った。

銅の国際価格は昨年春の安値から約2倍に上昇し1トン9000ドル前後と約9年半ぶり高値圏にある。ニッケルやアルミも高値圏にあるなど金属の価格が軒並み上昇しているだけでなく、原油や穀物といった国際商品（コモディティ）全体の価格が上昇し始めた。

コロナ禍で停滞した経済活動の再開で、資源需要が戻ってきたことが背景だ。原油は昨年春にマイナス圏と異常な低価格になったが、この1年で1バレル60ドル台へと大きく回復した。自動車の触媒に使うロジウムは1トロイオンス約3万ドルと1年前の安値の約5倍に高騰する場面もあった。穀物も中国による「爆買い」などで昨夏から急騰し、ラニーニャ現象で供給懸念も浮上。シカゴ・マーカントイル取引所（CME）で大豆の先物価格が足元で約7年ぶりの高値を付けた。

未曾有の財政・金融緩和で市場にあふれたマネーもコモディティに流入する。米調査会社EPFRグローバルによると、20年の商品型ファンドへの資金流入は563億ドル。データを遡れる05年以降で最大の流入額となった。日本取引所グループ（JPX）によると、商品先物の代表銘柄の一つである金の標準取引の取引高は20年に859万枚と6年ぶりの高水準となった。

かつてスイス資源大手エクストラタの最高経営責任者（CEO）を務めたミック・デービス氏は3月15日、電気自動車（EV）などに電池に使われる金属に投資する自らのファンド「ビジョン・ブルー」が、バナジウム生産会社に最大1150万ドルを投じると発表した。2月の設立と同時に6000万ドルを調達し、約3000万ドルをマダガスカル黒鉛の生産プロジェクトに投じると決めただけだ。デービス氏は「我々がいかに急速に勢いをつけているか示している」と語る。

国際商品の指標であるロイター・コアコモディティCRB指数の年初からの上昇率は11%と、米S&P500種株価指数の7%を上回る。あらゆるコモディティに投資マネーが集まり、価格が上昇する局面には既視感がある。2000年代初めから原油や穀物が長期間上昇した「スーパーサイクル」と呼ばれる時期だ。CRB指数は08年をピークに低下したが、昨年4月を底に直近1年で8割上昇するなど、反転の兆しがみえる。

過去の経験則からの連想で、スーパーサイクルが再び始まったとする説が台頭している。リーマン・ショック後は金融システム安定に力点が置かれていたのに対し、コロナ禍での未曾有の財政・金融緩和は需要喚起を進める。米ゴールドマン・サックスは環境政策などにより「コモディティの新しい構造的強気相場が始まる」と指摘する。

異論もある。みずほリサーチ&テクノロジーズの門間一夫エグゼクティブエコノミストは「00年代は新興国台頭による世界経済の高成長などがあったが、今は匹敵する大きなストーリーはない」とみる。欧州エネルギー取引所グループの高井裕之上席アドバイザーは「EVに使われる銅などの商品が上昇するグリーンサイクルと呼ぶべき状況で、原油などはいずれ下がる」と指摘する。

脱炭素の流れで需給の構造が大きく変わるところに、マネーが流入した商品相場の実相を分析する。

〔日経ヴェリタス2021年4月4日号より抜粋〕

コロナ下でインフレの芽 需要回復、供給追いつかず

2021/2/17 23:00 (2021/2/18 5:36更新) | 日本経済新聞 電子版

米欧を中心に物価上昇圧力が高まってきた。新型コロナウイルス禍で多くの製品の供給や輸送力が細るなか、大規模な財政出動やワクチン普及による経済正常化で需要が急回復すれば、物価高が加速する可能性がある。インフレ圧力の高まりは金融引き締め観測や、長期金利の上昇と連鎖したドル高を誘う。金融政策のかじ取りは一段と難しくなりそうだ。

米国の1月の物価上昇率は1.4%とコロナ前の水準に迫る。米債券市場では今後10年の予想インフレ率が年2.2%まで上昇し、6年半ぶりの高水準となった。日本や中国の基調はなお弱いが、欧州も1月の物価上昇率が0.9%と6カ月ぶりにプラス圏に転じた。

世界経済は2020年春、コロナ禍で需要が蒸発する危機に陥った。潜在的な供給力と需要の差を示す需給ギャップは2020年4～6月期に米国でGDPの10%超にあたる約2兆ドル（約210兆円）になるなど、深刻な需要不足が広がった。需要の急減で製造業は工場を休止するなど供給を絞った。

今はその急収縮からの回復の途上だ。「耐久財を中心に夏以降の需要回復を受けて工場の操業を戻したが、生産が追いつかず価格が上がりやすくなっている」（みずほ証券の小林俊介氏）

供給制約が続くなかで、まずテレワークなどの巣ごもり需要で一部の家電販売が夏から回復した。テレビの世界出荷は4～6月期に5400万台と前年同期より5%落ち込んだ後、7～9月期は14%増の7300万台と大きく伸びた。パソコンは4～6月期に11%増、7～9月期に15%増、10～12月期に26%増と拡大が続いた。

世界の自動車販売も4月に400万台程度まで落ち込んだ後はほぼ右肩上がり、12月には800万台を超え、前年の水準も上回った。

こうした消費の持ち直しによって、家電や自動車に広く使う鋼材の熱延コイルは東アジアの取引価格が1トン720ドル前後と20年春の底値より7割高くなっている。米国では約12年半ぶりの高値圏にある。テレビの汎用部材の液晶パネルも品薄が定着しており、国際価格は20年初めに比べ8割ほど高い。

物価が上がる背景には海上輸送など物流網の目詰まりもある。コンテナ船は減便がほぼ解除されたが、急回復する受注をさばききれない。上海発米国向け運賃は40フィートあたり4000ドル前後と20年初めの2.5倍。「この水準は異常事態」（日本郵船の丸山徹執行役員）との声も出る。

先進国共通の低インフレという長期トレンドはそう簡単には変わらない。だが今後、ワクチンの普及や内需を刺激する財政出動が続けば、一時的に過度なインフレにつながる懸念がある。サマーズ元財務長官はバイデン政権の1.9兆ドルの経済対策を過大と批判し「インフレリスクに警戒すべきだ」と主張する。「物価が上昇し始めた場合、連邦準備理事会（FRB）がうまく制御できるとは限らない」

FRBは早期の引き締めを否定している。パウエル議長は10日の講演で「当面は2%を上回る物価上昇率をめざす」と述べた。景気の下支えに力を注ぐバイデン政権と歩調を合わせ、雇用改善に向けた今の緩和政策を続ける姿勢だ。

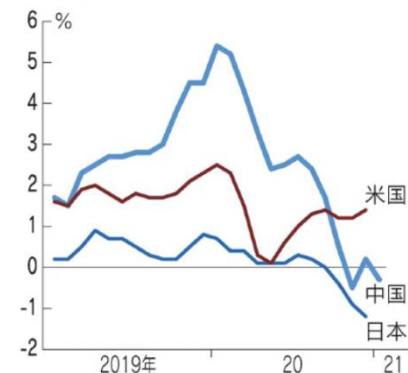
FRBには苦い記憶もある。13年に当時のバーナンキ議長が資産購入の縮小に言及したことで金利が急騰し、株式相場の急落を招いた。

とはいえインフレ圧力が強まれば市場は先回りして将来の金融引き締めを織り込む可能性がある。実際に金融市場では物価高と連鎖して金利の上昇が進む。米長期金利は16日に1.30%と約1年ぶりの水準に達した。

並行してドル高も進んでおり、17日は一時1ドル=106円台前半と5カ月ぶりの高値をつけた。ドル高はドル建て債務を多く抱える新興国の返済負担の増加や資金流出につながる恐れがある。

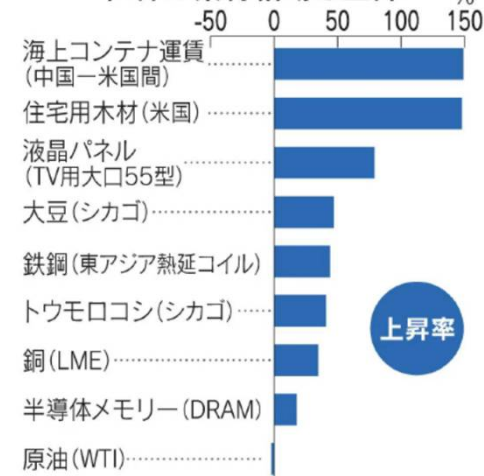
回復途上の実体経済を支えつつ、一時的な需給のひずみも映す物価や金利の上昇をどう制御するか。金融政策は難局にさしかかっている。

米国の物価上昇が目立つ



(注) 消費者物価指数の前年同月上昇率。日米は2020年12月まで

世界の素材相場は上昇

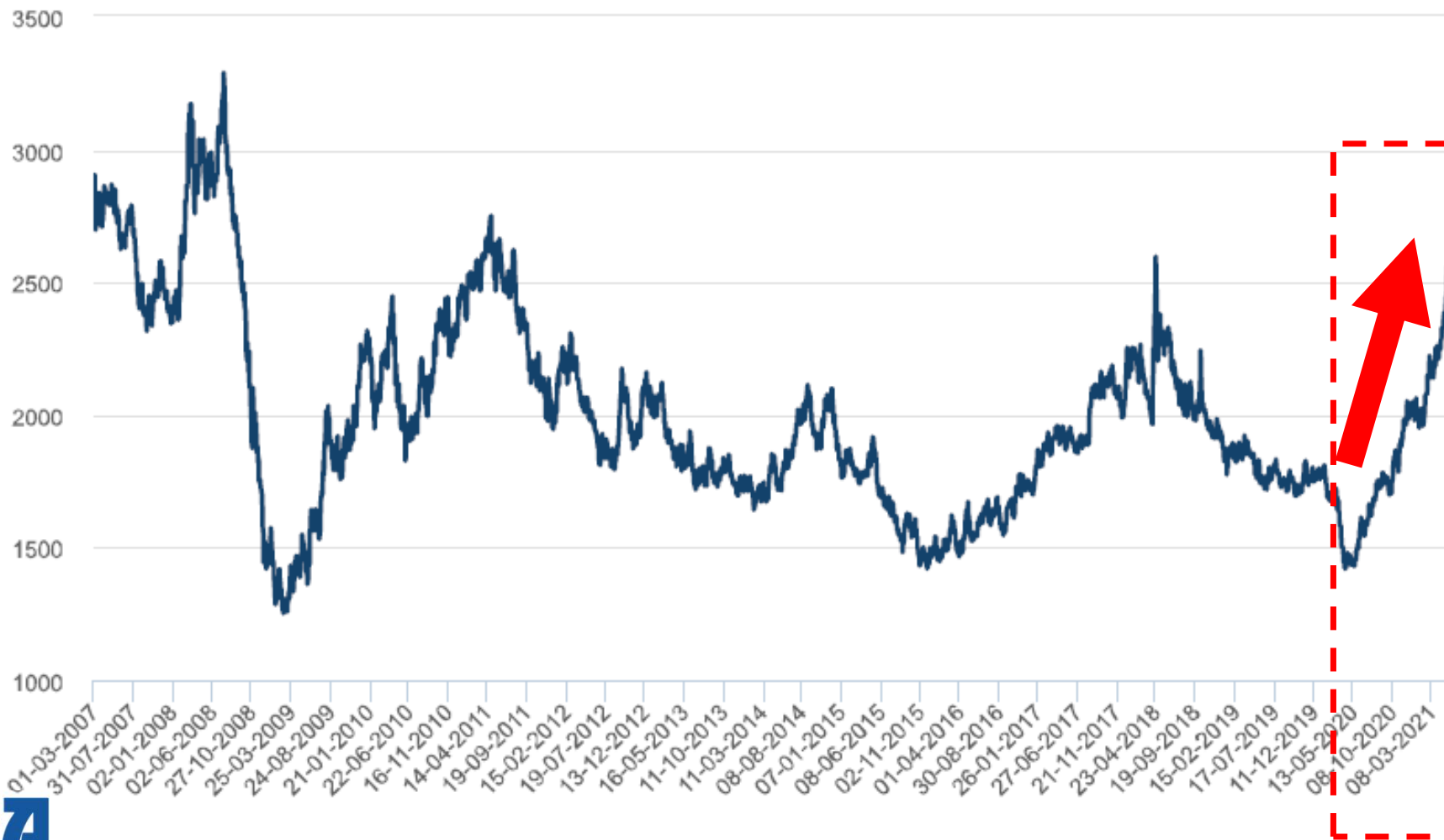


(注) 昨年初めと直近値の比較

アルミニウム ロンドン金属取引所LME 価格推移

(単位:
USドル/トン)

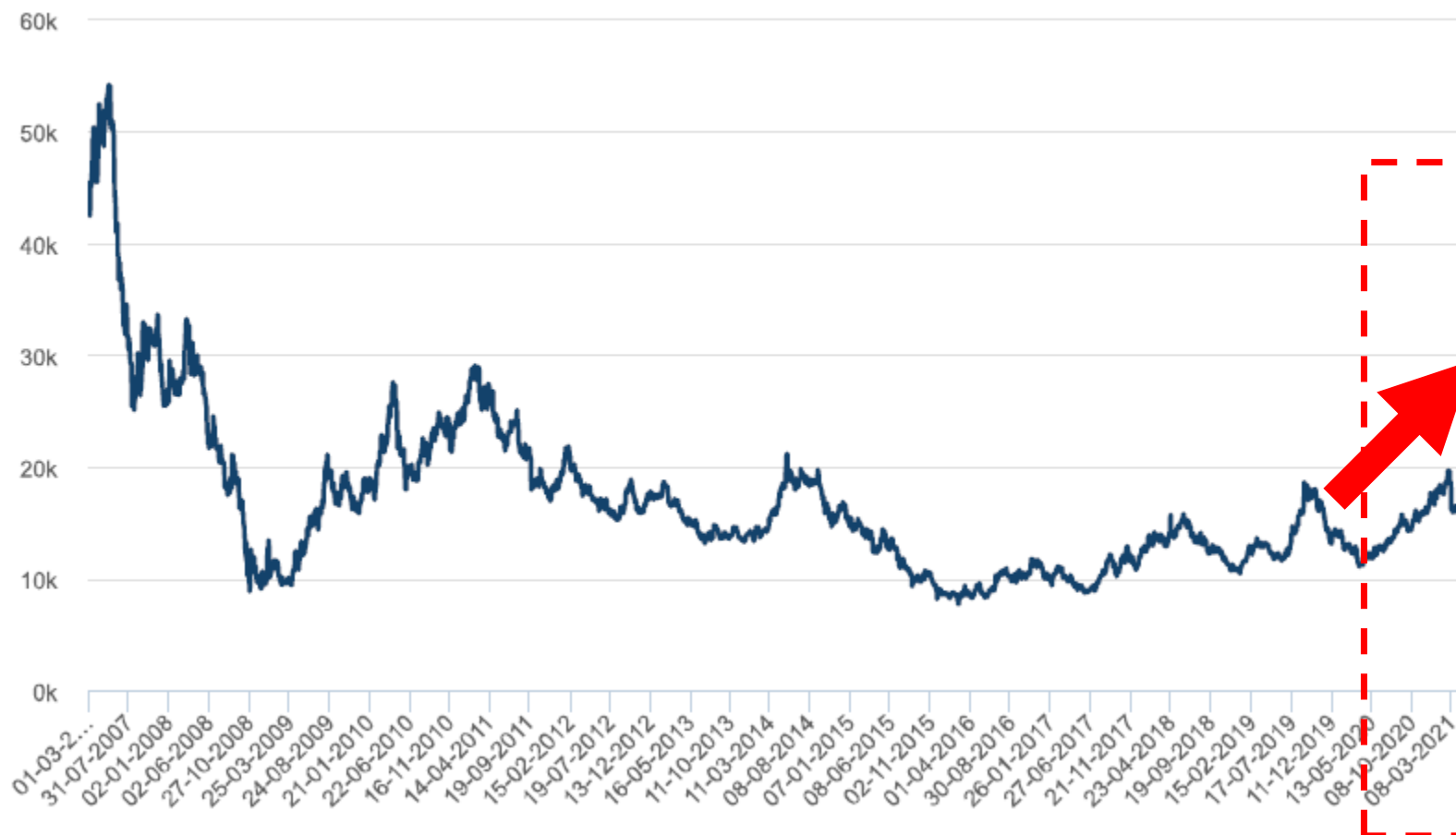
LME Aluminium Historical price graph



ニッケル ロンドン金属取引所LME 価格推移

(単位:
USドル/トン)

LME Nickel historical price graph



冷延ステンレス鋼板 (SUS304 2.0mm) 価格の推移

(単位:
円/トン)



ステンレス鋼板、一段高

前月比1%高 メーカー値上げの転嫁進む

2021/4/15 19:56 | 日本経済新聞 電子版



流通市場には先高観も出ている

厨房機器や建材などに使うステンレス鋼板の流通価格が一段と上昇した。ニッケルを使う「SUS304」の厚さ2ミリメートル品の流通価格は、東京地区で現在1キログラム390円前後。前月から5円（1%）上昇した。

原料高を背景にしたメーカーは断続的に専門商社などへの出荷価格を引き上げている。仕入れ値の上昇を需要家への販売価格に転嫁する動きが流通市場で続いている。

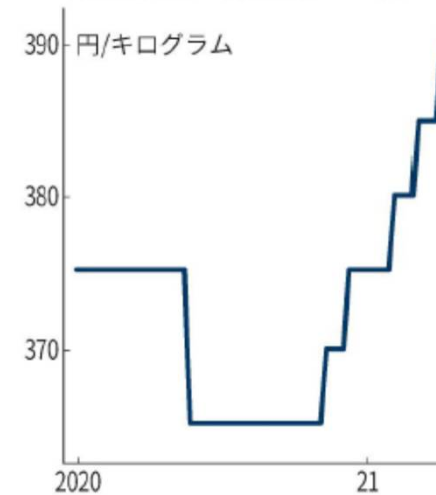
国内最大手の日鉄ステンレスは原料となるニッケルや鉄鉱石の国際価格の上昇をふまえ、国内流通市場（店売り）向け契約価格について、20年6月以降、ニッケル系の冷延薄鋼板を1トン計6万5千円（1キロ65円）値上げしている。

メーカーによるこれまでの生産カットで、鋼板に供給過剰感はない。東京地区の流通価格も2020年5～11月につけた安値から25円（7%）高となった。08年11月以来、およそ12年4カ月ぶりの高値水準だ。

ただ新型コロナウイルスの感染拡大による景気後退で、厨房機器や建材などの需要が振るわず転嫁の幅はメーカーの出荷段階に比べ小幅にとどまる。

ニッケル相場が3月に下落したことなどを受け、日鉄ステンレスは4月分の契約価格を3月比で据え置いた。コイルセンター（加工業者）の担当者は「4月の仕入れ値が横ばいとなり、流通市場としては販売価格への転嫁遅れをつめるチャンスができた」と話す。流通価格は当面上昇が続く見通しだ。

流通価格は断続的に上昇



(注)東京地区、SUS304（2ミリ品）

熱延鋼板(1.6mm)価格の推移

(単位:
千円/トン)



鋼板、軒並み一段高 昨秋比2割強、12年ぶり水準 車生産回復で

2021/4/14付 | 日本経済新聞 朝刊



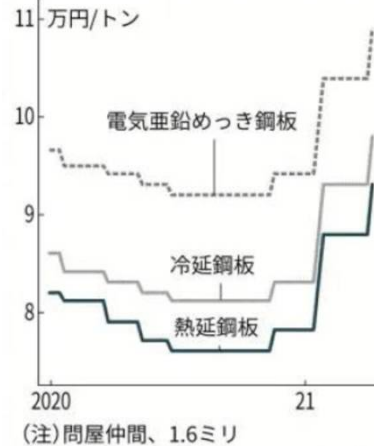
熱延コイルは店売り市場への入荷が細っている（関東のコイルセンター）

自動車や家電など幅広い産業で使う鋼板の一般流通（店売り）価格が軒並み一段高となった。指標品の価格は昨年秋の底値から2割強高く、12年ぶりの高値水準だ。自動車生産の回復や海外市況の高騰を背景に品薄感が強まった。高炉メーカーは原料高で追加値上げを表明済みで流通価格の先高観は強い。ただ需要家の製品メーカー側に抵抗感が強まりつつあり、鋼材問屋などの収益が圧迫されそうだ。

薄鋼板（厚さ3ミリメートル未満）の代表品種である熱延鋼板の1.6ミリ品は、現在の問屋仲間価格が1トン9万3千円前後。2020年夏から秋にかけての底値（同7万6千円前後）より1万7千円（22%）高く、リーマン・ショック後の急落局面にあった09年1月上旬以来の高値をつけた。前年同期比では18%高い。

熱延鋼板をさらに冷間圧延した冷延鋼板や表面処理を施した電気亜鉛めっき鋼板もそれぞれ2割前後上昇。厚鋼板（厚さ6ミリメートル以上）は1割強値上がりした。

薄鋼板は昨秋から上昇が続く



流通市場で品不足が目立ってきた。国内の工作機械向けの荷動きはまだ本調子ではないが、自動車生産の復調が続いている。鉄鋼メーカーは自動車メーカーと直接商談する「ひも付き」向けに製品供給を優先しており、店売り市場への入荷が慢性的に細っている。

コイルセンター（加工業者）幹部は「従前の半分程度しか入荷されなくなっている」と明かす。

中国の旺盛な需要を背景にしたアジア市況の高騰も品不足の一因だ。熱延鋼板をコイル状に巻き取った熱延コイルの東アジアでの取引価格は現在1トン835ドル前後。前年同期比で9割高い。

市場では900ドルに迫る輸出契約があるとの声もある。「製品が高値で売れる輸出に流れ、国内の店売り市場に物が出てこない」（関東の鋼材問屋）状況だ。

鉄鉱石や原料炭の調達価格が上昇し、日本製鉄は薄鋼板の店売り向け価格を昨秋から段階的に1トンあたり計2万円引き上げている。仕入れ値が上がった問屋や商社は販売価格への転嫁を続けている。店売り市場での品薄感が流通価格の上昇圧力をさらに高めた。

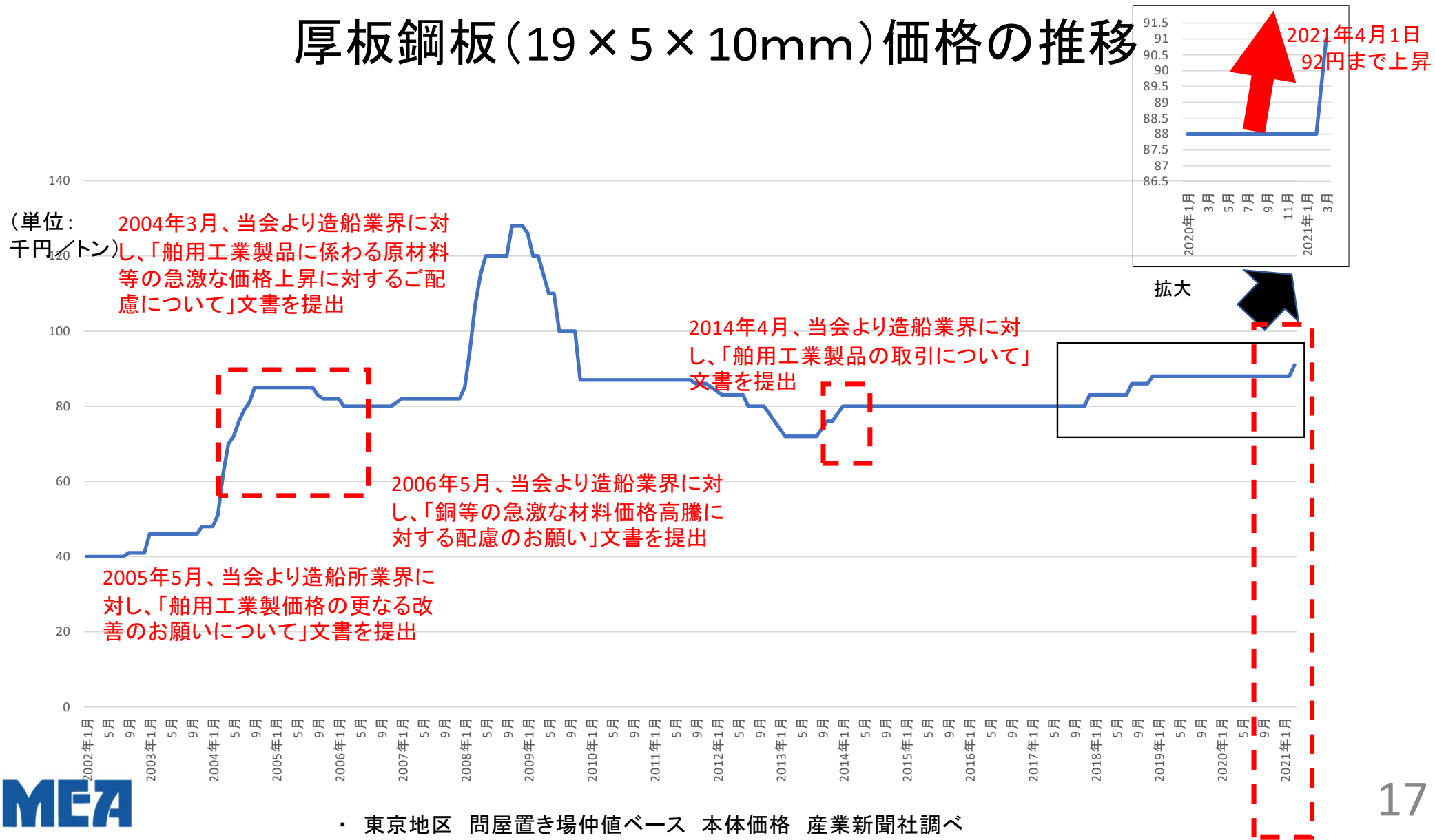
足元では、半導体不足で自動車メーカーに減産の動きが出ている。ひも付き向けに供給されていた製品が店売り市場に回ってくる可能性もあるが、高値が続くような輸出に流れ、国内店売り市場の品薄感は解消されないとの見方が多い。

日本製鉄は薄鋼板の店売り向け価格について、5月出荷相当分からさらに1万円引き上げると表明している。流通価格も追って上昇するのが確実な情勢だ。

ただ、店売り市場での薄鋼板の需要は建材向けが依然として振るわない。「国内工作機械向けなども動きつつあるが、低水準」（鋼材問屋）という。

「昨秋からの価格急騰で需要家側は既に値上げ疲れしている。実需が弱いままでは仕入れ値の上昇分を転嫁しきれなくなるだろう」（別の鋼材問屋）との声がある。

厚板鋼板(19×5×10mm)価格の推移



新関西製鉄、平鋼など全品種1万円上げ 1月契約分から

2020/12/22 22:09 | 日本経済新聞 電子版

電炉の新関西製鉄（堺市）は22日、造船や建材などに使う平鋼など全品種の鋼材価格を、2021年1月契約分から1トンあたり1万円引き上げると発表した。値上げは今期に入り3回目、上げ幅は08年5月以来の高水準となった。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う解体工事の減少や海外の需要増で原料の鉄スクラップ価格が高騰しており、値上げで採算を改善する。

鉄鉱石と石炭を使う高炉と異なり、電炉は鉄筋くずなど鉄スクラップを溶かして鋼材に再利用する。鉄スクラップはコロナで再開発に伴う解体くずの発生量が減ったうえ、中国が輸入規制の緩和に動いており先高観が強まっている。12月中旬には標準品種「H2」の大阪地区の電炉買値が1トン3万4500円前後と、1カ月で25%高くなった。

新関西製鉄は建築需要の落ち込みを受け、7月以降の生産量が例年の3割減で推移している。固定費がかさみ採算が悪化しており、2021年1月以降に追加の値上げも検討する。

神戸製鋼所、厚板1万円値上げ

1月契約分、原料高・物流費上昇で

2021/1/28 20:20 | 日本経済新聞 電子版

神戸製鋼所は28日、造船や機械、建材に使う厚鋼板を1月契約分から1トン1万円値上げすると発表した。主原料の鉄鉱石の価格が高騰しているのに加え、物流費や資材費も上昇しており、製品価格への転嫁を進める。

問屋が市中で販売する「店売り」向けや、大口需要家との「ひも付き」取引向けなどの販売価格を引き上げる。同社は昨年10月分から5千円以上の値上げを実施していた。

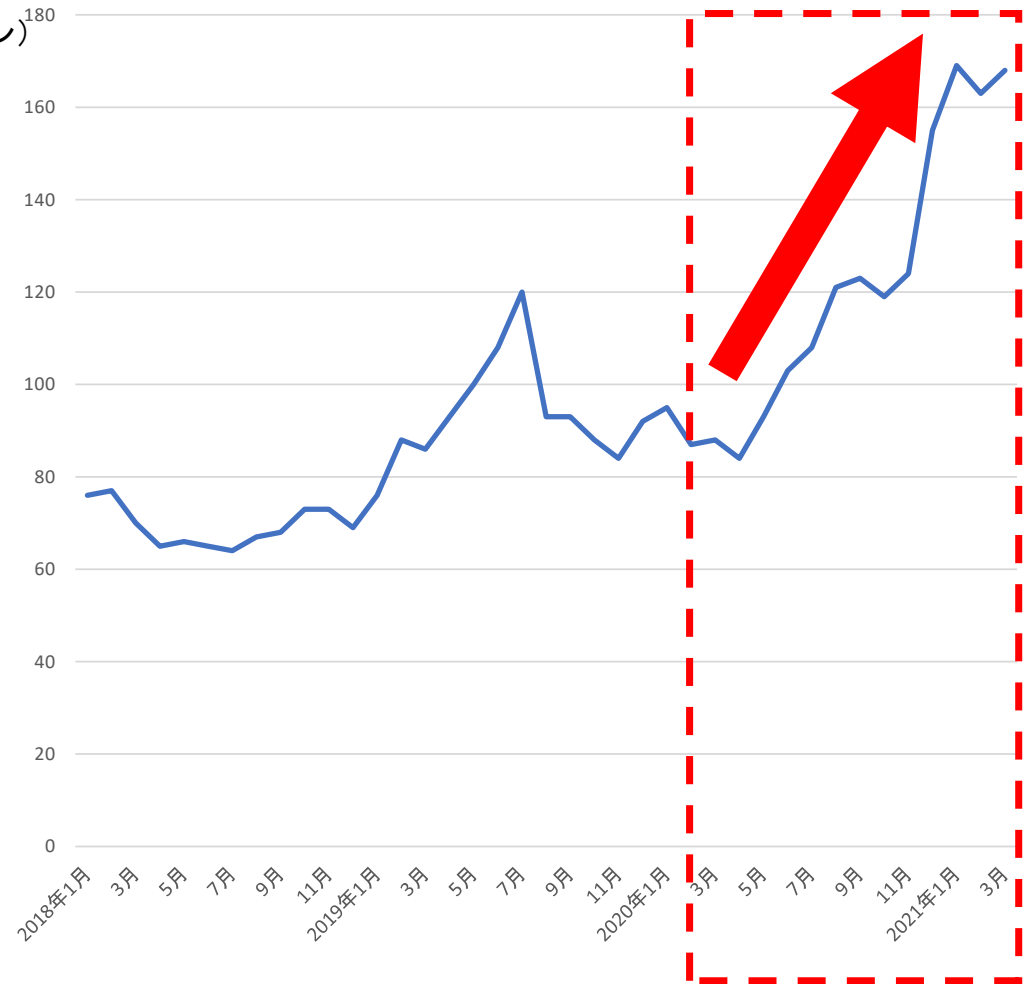
言葉メモ

ひも付き（ひもつき）

鋼種やその仕様で製造された鋼材が、メーカー～鋼材問屋～需要先と流通していくときに、あらかじめ、取引方法が定まっている流通形態を言う慣用的な呼び方（業界用語）。これに対して、需要先が数箇所に分散する場合（一般的に流通している鋼材）は「市中品（市中材）」「店売り」などと呼ばれる。

鉄鉱石価格の推移

(単位:
USD/トン)



「World Bank – Commodity Markets」情報より

高炉の鉄鉱石4～6月調達価格、9年半ぶり高値

国際市況は昨年末比1割高 原料炭も上昇、鋼材値上げ一段と

2021/3/18 11:30 | 日本経済新聞 電子版

国際価格は上昇が続いてきた



中国発の国際価格上昇が日本の高炉の原料コストを押し上げる（オーストラリアの鉱山=ロイター）

高炉が製鉄の主原料に使う鉄鉱石の調達価格が急騰し、9年半ぶりの高値を付けた。中国の需要が引き続き旺盛で、国際スポット（随時契約）価格が大幅に上昇したのを反映した。もうひとつの主原料である石炭の調達価格も上がっている。高炉各社は製品の鋼材値上げを一段と進める構えだ。

日本製鉄など日本の高炉は、鉄鉱石の調達価格を資源大手と3カ月ごとに決める。4～6月期は1トン当たり155ドル程度（FOB=本船渡し）と1～3月期に比べて40ドル（35%）ほど上昇。2011年10～12月期以来の高値だ。

値決めの際に参考にする国際スポット価格は上昇傾向が続いてきた。米調査会社S&Pグローバル・プラッツが算出する国際価格指数（中国行き・鉄分62%粉鉱、運賃込）は3月期に1トン178.45ドルと昨年末より12%高く、11年9月以来の高値を記した。

鉄鉱石の海上貿易量の3分の2を輸入する中国では、粗鋼生産の拡大が続き、鉄鉱石の需要もなお旺盛だ。今年1～2月の輸入量は1億8千万トン強と前年同期比で3%増えた。インドなど他の主要国の鉄鋼生産の回復も、鉄鉱石需要を押し上げている。

一方、過去の鉱山事故などの影響でブラジルの資源大手ヴァーレの生産量は伸び悩んでおり「需要に対し供給が十分ではなく、高値でも引き合いが出やすい」（商社）。先高観から中国の鉄鉱石先物相場に投機資金が流入し、国際スポット価格の上昇に波及したとの見方もある。

高炉のもうひとつの主原料である石炭（原料炭）は、日本の1～3月期の調達価格が1トン122ドル（FOB）程度。20年10～12月期に比べ6ドル（5%）上昇した。

外交関係のこじれから中国がオーストラリアからの原料炭輸入を止めた影響で、国際スポット価格は昨年末にかけて下落した。ただ欧州などの鉄鋼メーカーが割安になった豪州炭の引き合いを増やした結果、今年に入りスポット価格が一時急騰。高炉の調達価格も押し上げた。

原料高を受け、日本の高炉は鋼材の追加値上げを進めている。JFEスチールは20年7～9月期に比べ累計で1トン1万3000円強のコスト上昇につながるといい、今年4月出荷相当分から鋼材全品種で同額の値上げを決めた。

鉄鉱石の国際価格指数は高騰の反動などから、15日時点では160ドル台前半で推移している。原料炭も「豪州炭を巡る中国の輸入規制の行方がみえない」（専門商社）と、鉄鋼原料相場の先行きの不透明感を指摘する声がある。ただ当面は原料高による鉄鋼メーカーの値上げが一段と進み、流通会社や需要家は仕入れコスト上昇への対応を迫られそうだ。

鉄スクラップH2価格の推移

(単位:
千円/トン)

